

西大寺食堂院・北辺坊の調査

平城第404・410次調査 2006.10.7



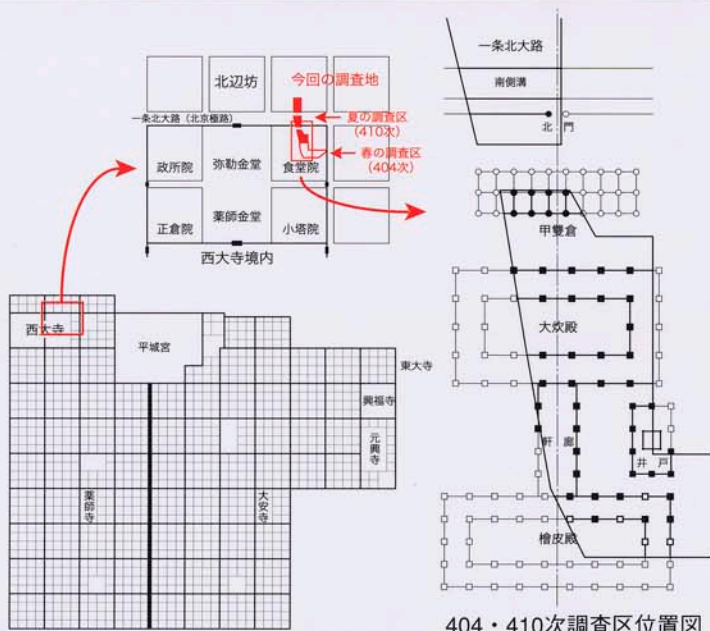
一条北大路南側溝



大炊殿



大炊殿の礎石据付穴



井戸

平城第404次・410次調査の調査地は、西大寺北東（食堂院）・一条北大路・北辺坊（右京北辺三坊三坪）にあたります。西大寺食堂院では、宝亀11年（780）の『西大寺資財流記帳』にみえる檜皮殿・大炊殿・甲双倉のほか、埋甕列・井戸などがみつかりました。また、一条北大路側溝が確認され、平城京の都市計画復原に重要な資料を得ました。北辺坊では、柱列や溝がみつかりました。奈良時代を通じての活発な土地利用がうかがえます。

大炊殿 西大寺の大炊殿。資財帳の長九丈・広五丈という記載通りの巨大な建物がみつかりました。礎石建ちで、東西七間・南北四間。西から。大炊殿の礎石据付け穴 建物の重量を支えるため、礎石の下には強固な基礎が必要でした。方形の穴を掘り、瓦・石を入れ、さらに層状に土を積んでいます。北西から。

井戸 西大寺食堂院の巨大な井戸。井戸枠は分厚い材で組まれています。西大寺を支えた「水源」です。南西から。

一条北大路南側溝 幅約4m、深さ約70cmをはかります。何度かの浚渫・改修が行われています。東から。

西大寺食堂院・北辺坊の調査 現地説明会資料添付図版
平城第404.410次調査 2006年10月7日

(独)文化財研究所奈良文化財研究所 都城発掘調査部
〒630-8577 奈良市二条町二丁目9-1 <http://www.nabunken.jp/>